

こんにちは 家畜保健衛生所です

平成 28 年 2 月 2 日

牛アルボウイルス調査結果について

家畜保健衛生所では、毎年、農家のみなさまのご協力のもと、県内の浸潤状況を見るためにアルボウイルス（ヌカカなどの吸血昆虫が媒介するウイルスの総称）の抗体保有状況を調査しています。

調査協力：14戸34頭の子牛について6、8、9、11月の計4回

調査疾病：イバラキ病、牛流行熱、アイノウイルス感染症、アカバネ病、チュウザン病

調査成績：平成27年度奈良県ではウイルスの動きは認められませんでした。



➤ イバラキ病

- ・流産も引き起こすが、発熱や嚔下障害が主症状
- ・過去に九州、中国、四国で大きな流行があり、平成27年10月に兵庫県でもイバラキ病を疑う疾病が発生

➤ 牛流行熱

- ・突発的な発熱、歩行困難、乳量停止などがみられる
- ・近年、沖縄県でのみ発生があったが、平成27年9月～10月に九州でも発生

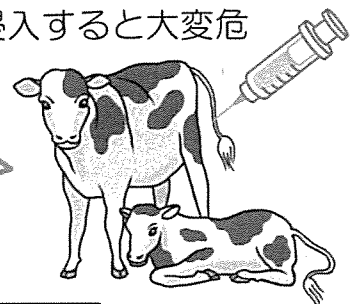
➤ アイノウイルス感染症、アカバネ病、チュウザン病

- ・主に流産や異常産を引き起こし、多大な被害
- ・アイノウイルス感染症、アカバネ病は過去に近畿でも大きな流行あり

アルボウイルスは西日本、特に九州で被害をもたらしてきました。しかし、温暖化などの気候変動がウイルスを媒介する吸血昆虫に影響し、ウイルスの流行時期が早くなったり、流行地域が北上したりする傾向がみられ、全国的に問題になってきています。

今年度はウイルスの動向はありませんでしたが、今までに周期性をもった疾病の発生がみられてきました。免疫をもたない牛の割合が増えた時に大流行が起こると考えられます。現在の免疫がない状態でウイルスが侵入すると大変危険です。ワクチンで防ぎましょう。

アイノウイルス感染症、アカバネ病、チュウザン病は
3種混合ワクチンで予防できます。
家保から3月に接種希望頭数の調査FAXをお送りします。



家畜保健衛生所業務第一課

0743-59-1700

家畜保健衛生所業務第二課

0745-62-2440